

脳卒中と聞くと、寝たきりになって大変な病気というイメージをお持ちの方が多いと思います。確かに後遺障害のため、身体障害者や要介護の原因の第1位を占める厄介なものです。脳卒中になることを心配しすぎても困りますが、自分は大丈夫と無視するのも考えものです。備えあれば憂いなし、脳卒中を知り、対策を考えておくことは必ず役に立ちます。少しばかりお付き合いください。

脳卒中には脳の動脈が詰まって起こる脳梗塞、脳の中の動脈が破れて起こる脳出血、脳動脈瘤が破れて起こるくも膜下出血があります。脳梗塞7割、脳出血2割、くも膜下出血1割くらいで、脳梗塞が一番多いです。脳卒中は突然起こりますが、元々の原因は

若い頃からひそかに作られているのです。高血圧、糖尿病、血液のコレストロールが多い、タバコ、お酒の飲みすぎ、心臓の病気などがあって、年をとるにつれて全身の血管が詰まったり、破れやすくなるのです。メタボリックシンドローム

(通称メタボ)が流行語のように広まっていますが、これらの危険因子はまさにメタボそのものです。メタボを克服することが脳卒中の予防です。健康を維持するには努力が必要です。

努力にもかかわらず不幸にして脳卒中になってしまったらどうしましょうか。まず脳卒中の症状を知りましょう。くも膜下出血は激しい頭痛です。意識を失うこともあります。脳出血も頭痛がありますが、脳梗塞では普通頭は痛くなりません。体の半分が動かない、しびれる、顔がゆがむ、しゃべりにくい、目がみにくい、めまい・ふらつくなどがよく

先生 おしえて!!



神経内科 山田 猛

脳卒中のはなし 一時は脳なりー

vol.005

起こります。症状が短時間でよくなることもあります。特に危険因子をお持ちの方は、こんな症状が出たら、すぐに神経内科か脳神経外科のある病院に急いでください。死んでしまった脳をよみがえらせることはできませんが、死にかかっている脳は助けられるかもしれません。脳梗塞の治療にtPA(P/A)ではありません)という薬が平成17年から使えるようになりました。この薬は動脈に詰まった血のかたまり(血栓)を溶かして、血液の流れをよくして症状を治せる場合があります。ただし治療できるのは脳梗塞が起こって2時間くらいまでに病院にいられた時です。今のところこの治療を受けられる脳梗塞の患者さんは5%もありません。まさに「一時は脳なり」、脳卒中の治療は時間との戦いです。ためらわず救急車を呼んでください。

脳卒中の治療は急性期の治療で終わるわけではなく、後遺症がある場合、社会復帰、家庭復帰を目指してリハビリテーションを行います。また、再発予防も必要です。地域の医療機関が共同して脳卒中の診療を完成させます。当院は急性期診療を行っており、回復を目標にしたリハビリテーションはリハビリの専門病院へ引き継ぎます。充実したリハビリテーションを受けてもらうことで障害を乗り越えることができます。また、地域のかかりつけの先生のもので、再発の予防を行うことが、この先の人生にとってとても大切なことです。

よけいなお世話かもしれませんが、ご家族を悲しませないために、くれぐれも予防とすみやかな受診をお忘れなく。